

カラフル通信



うわさせず、人との違いを認め合い、
相手の気持ちを考えて、平等に過ごそう



いじめについてクラスで話し合いました。グループで出し合った意見に対して、「とてもそう思う」…ピンク、「そう思う」…水色、「疑問・質問」…緑というように、カードを提示してもらいました。子どもたちが強く反応を示したのは「へんなうわさを流す」「デマ情報を広める」「かげろ」といったあたりです。「ありもしないことを言われる」ことに嫌な思いをしてきた人が非常にたくさんいました。これから6年生は「うわさゼロ、デマ情報ゼロ」を目指します。

また、「うわさ」でもなく「デマ情報」でもなく、「本当のこと」なら言ってもいいのか、という意見がありました。いくら「本当のこと」でも、「相手の気持ちを考える」ことが大切、という考えも共有しました。そうしてできたのが上記のめあてです。

「空気を読む」という言葉も個人的に気になっています。「空気を読む」といじめが起こりにくい？本当にそうでしょうか。確かに場の空気を読むことは、集団生活においてある程度必要なスキルだと思います。コミュニケーションにおいて「察する」ことも大切です。しかし、いじめの原因の一部は、「みんなやってる」「おれだけじゃないし」という同調圧力、つまり「空気」なのではでしょうか。誰かが悪口を言ったら一緒になって笑っている人。その場を否定すると、今度は自分がターゲットになってしまうのが不安なのでしょう。「ノリがわりー」「つまんねーの」、と思われたくないのでしょう。そんな空気は読まなくていいんです。「読むべき空気」と「読まなくていい空気」、ぜひ御家庭でも話題にしてください。このクラスからいじめをなくすために。